

わたしにとって大切な二つの出来事

鹿児島市立田上小学校 四年 宮前 陽奈

「カンカンカンカン・・・。」

今日は木曜日。週に一度のスイミングの日です。家に帰る足取りも自然と速くなり、私は、歩道橋をいきおいよくかけ上がりました。歩道橋を下り終えるまであと数だん。歩道橋とに気がつききました。かけおりのいきおいそのままに、近づいてみるとそれは、財布でした。そのとき、わたしに、あの日の苦い思い出がよみがえってきました。

なわとび大会が間近に迫った今年の二月のことでした。わたしは、買ってもらったばかりのとびなわで遊んだ後、そのとびなわをうっかり、校庭に置き忘れてしまったのです。

数時間後、置き忘れたことに気づいたわたしは、必死でさがしました。

でも、とびなわはどこにもありませんでした。

「買ってもらったばかりなのに、どうしよう。」

とてもショックでした。とびなわに名前を書いていたことにわずかなぞみをかけ、それから毎日事む室に通いました。でも、事む室の落とし物入れに、わたしのとびなわがとどけられることはありませんでした。

「落とした人は、きっとこまっぺいるにちがいない。すぐにどけないと。」

財布を落としてこまっぺいる人の顔がうかがえました。

「カンカンカンカン、タッタッタッタッ・・・。」

歩道橋をいきおいよくかけ上がり、

来た道を引き返しました。そして、事む室へ行き、先生にとどけました。すると先生が、

「ありがとう。よくとどけてくれたね。落とした人は、きっと今ごろこまっぺいるね。すぐにれんらくするね。」

と、にっこりわらって受け取ってくれました。わたしの心がぼかぼかになりました。

次の日の昼休み。しよく員室によばれました。しよく員室に行くとき、教頭先生が、

「財布の持ち主の大学生から、きのう、お礼の電話がありました。」

本当は、直せつあってお礼をつたえたのだけど、なかなか都合をつけられないそうです。だから、

『ありがとうございました、とよろしくお伝えください。』と言っていましたよ。」

と、目を細めながら話してくださいました。わたしは何だか、自分のことのようにうれしくなりました。

とびなわを置き忘れてしまった出来事。それは、わたしにとって、とても苦い思い出でした。でも、その出来事があったからこそ財布を落としてこまっぺいる人を助けることができたのだと思います。そう考えると、あの苦い出来事も、わたしにとって、大切な出来事だったなど、今では思うことができるようになりました。

「カンカンカンカン・・・。」

歩道橋を下りる心地のよい音を聞く度に、心がぼかぼかと温かくなります。

〔審査評〕

とびなわを置き忘れた出来事と財布を拾い、事む室に届けた出来事につながりが作文の組立の上で工夫されていて、わかりやすい内容となっている良い作文です。

書き出しの「カンカンカンカン・・・。」の音の言葉の使い方もよいです。よく見かける歩道橋も「大切な二つの出来事」のように心に残るよいつながりがあるとよいですね。